

2009年11月19日

お取引先各位

株式会社トレードワークス



マスクに関する国民生活センターの報道について

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は弊社事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成21年11月18日独立行政法人国民生活センターより報道のありました内容につきまして、弊社の基本的な考え方について、ご案内申し上げますのでご査収のうえご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

●報道の概要

新型インフルエンザの流行によりマスクの需要が増加しているが、最近では「ウイルス99%カット」など、ウイルス対策をうたった商品が多く見受けられる。

PIO-NET(全国消費生活情報ネットワーク・システム)には、マスクに関する相談が2004年度からの約5年間に771件寄せられており、そのうち、「新型インフルエンザ対策用の規格相当と表示したマスクを購入したが届いたのはありふれた不織布マスクだった。」など、品質や機能に関する相談が205件あった。

そこで、ウイルス対策をうたったマスク15銘柄(プリーツ型9銘柄、立体型6銘柄)を対象に、マスクのフィルター部の性能や着用時にできる顔とマスクの隙間から空気がどの程度漏れるのか等をテストした。

テスト結果として、今回特に問題視されたのは、ウイルス対策をうたっているにもかかわらず、フィルターの捕集効率が低いものがあった。

さらに、N95マスクの基準を満たしていると受け取れる表記があっても、捕集効率が80%以下のものが3銘柄あり、消費者が誤認するおそれがあった。

●報道内容における弊社の基本的な考え方

・「ウイルス飛沫99%以上カット」表示の経緯と現在の対応について

「厚生労働省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室」より、ウイルスの主な感染ルートは飛沫感染と接触感染であると発表されております。

- ・飛沫感染とは

感染した人がくしゃみ、咳をすることで排泄される5 μ m以上の飛沫にウイルスが含まれて約1~2メートルまで浮遊し、感染していない人が吸い込むことによって感染します。ウイルス自体は小さいため、自ら遠くに飛ぶことはできませんが、ある程度の重さのある飛沫に含まれて体内より排出されます。

また、新型インフルエンザ専門家会議の「新型インフルエンザ流行時の日常生活におけるマスク使用の考え方」にも同様の内容が記載されております。

- ・ウイルス飛沫99%以上カットと表示した根拠について

上記の考えに基づき、弊社といたしましては、5 μ m以上の粒子の透過をカットできれば、飛沫に含まれたウイルスの進入を防ぐことができると判断し、商品化いたしました。そこで、3 μ m以上の透過を検証できるBFE試験(細菌を使用)を米国ネルソン研究所、財団法人日本化学繊維検査協会にて実施し、99%以上をカットした実験結果をもとに表示をいたしました。

- ・花粉99%以上カットと表示した根拠について

財団法人日本化学繊維検査協会にて検査を行った結果、花粉粒子の捕集(ろ過)効率99.9%以上という結果をもとに表示をいたしました。

- ・表示について

社団法人日本衛生材料工業連合会自主基準による表示に基づいて表示しております。

- ・参考資料

上記表示を証明する資料として、下記の検査報告書がございます。

1. バクテリアバリア性(BFE)試験 米国ネルソン研究所検査報告書
2. バクテリアバリア性(BFE)試験 財団法人日本化学繊維検査協会検査報告書
3. 花粉粒子の捕集(ろ過)効率試験 財団法人日本化学繊維検査協会検査報告書

- ・その他

上記記載に関する質問、証明書等のご要望がございましたら各営業担当者までお問い合わせ願います。

以上